

## 「これからの日本外交を考える」

2017年9月28日 明治大学国際総合研究所フェロー 川口順子

### 1. はじめに

- (1) 問題意識 未来の秩序を担う主体と構造は何か  
時期 2030年頃及びその先
- (2) 答は、ネットワーク覇権/パックス・アミキティア(国家連合による平和)ではないか。
- (3) それを踏まえて日本はこれから何をすべきかを考えたい。

### 2. これからのアジア太平洋の政治経済情勢

- (1) 地域の大きなプレイヤーの今後の発展  
中国その他の新興国  
米国
- (2) 20世紀と異なる要因  
経済相互依存（貿易のみならず、企業活動、投資、技術、金融等広範囲で依存。）  
ソフトパワーと世論の役割
- (3) ファットテールリスクとしての北朝鮮
- (4) これまでの取りまとめ—地域の未来の情勢についての仮説

### 3. 望ましいアジア太平洋の未来秩序

- (1) アジア太平洋のこれまでの資産の強化
  - 地域に均霑されつつある高い経済成長とそれに伴う経済相互依存(すなわち、ダイナミックなパワーのシフト)  
背景としての米国と同盟国によるハブ・アンド・スポークスによる平和と安定及びリベラルな国際経済秩序
  - 機能的協力の進展  
アセアンを中心とする経済社会分野及び非伝統的安全保障分野における機能的協力の進展
- (2) 上記枠組みの強化—アジア太平洋コミュニティー
  - 東アジアサミットの役割(主要国がメンバーである。)
  - ASEANの役割と必要な改革
  - APECの役割
  - 確保すべき新たな要素—動的均衡及び民間部門の参加
- (3) ハードな安全保障の枠組み—将来の課題

過渡期の問題  
適切なコスト負担

4. そのために日本は何をすべきか

(1) 基本的考え方

① 存在感のある尊敬される国になる。

日本はその頃どのような国か。今と同じではない。

- 強靱な日本を目指しての国内基盤の改革（経済、社会保障、）資源の配分についての選択と集中 自他ともに日本の強みを認識できるように。技術、環境

- 社会の求心力の維持

- 人の国際競争力強化

② 知的人的貢献を重視

③ ワーストシナリオを避ける。

- 米国のアジアからの撤退、
- 中国の影響下に入る
- 経済的停滞
- 核武装
- 国際社会での孤立

(2) パワーシフト及びそれに伴う緊張・リスク増大に対して

リアリスティックな外交(矛盾しうる目的をリアリスティックにバランス)

- 国際政治についてのリアリスティックな考え方の涵養
- 日米同盟の深化と貢献拡大
- 自らの防衛力強化、国民の納得の下で憲法改正
- 中国との広範な協力関係のインターフェース拡大(共通な課題について) 排出量取引市場の構築、少子高齢化対策など
- 中国とリスク管理枠組み構築
- インド、インドネシア、フィリピン、豪州、NZ と密接な協力関係維持
- 韓国との関係深化(特別な関係の構築)
- ロシア
- (北朝鮮)
- 核不拡散・核軍縮をはじめとする地球・地域規模課題への取組をリード
- マルチで発想する。(地域研究強化)

(3) アジア太平洋地域のダイナミズム及び一体感維持、並びに新興国のガバナ

## ンス構築・維持能力への貢献

- 経済  
自由な国際経済体制の強化をリード  
ダイナミックにシフトするアジア太平洋の経済構造の促進支援  
国際基準
- 社会基盤、人材、ガバナンスのルール等について機能的協力をリード
- ASEAN の一体性維持及び改革支援
- 地域の秩序作りへの貢献